

## 平成31年第2回筑紫野市教育委員会定例会

### ○日 時

平成31年1月31日（木）午後2時01分から午後3時16分

### ○場 所

筑紫野市役所 301会議室

### ○出席委員（5名）

教 育 長	上 野 二三夫	教 育 委 員	近 本 明
教 育 委 員	潮 見 眞千子	教 育 委 員	田 代 邦 夫
教 育 委 員	西 村 幸 子		

### ○欠席委員（0名）

### ○出席説明員（10名）

教 育 部 長	八 尋 清 和	教 育 政 策 課 長	森 敬
学 校 教 育 課 長	吉 開 和 子	学 校 給 食 課 長	倉 掛 伸 夫
生 涯 学 習 課 長	長 澤 龍 彦	文 化 財 課 長	宮 原 博 揮
文 化 ・ ス ポ ー ツ 振 興 課 長	大 久 保 泰 輔	指 導 主 事	河 野 隆 子
指 導 主 事	松 田 高 行	社 会 教 育 主 事	砥 綿 麻 衣

### ○出席事務局職員（1名）

教 育 政 策 課  
庶 務 担 当 係 長 葉 山 順 子

### ○議 事 日 程

1. 教育委員会会議録の承認について  
平成30年第13回筑紫野市教育委員会会議録（平成30年12月27日開催）
2. 教育長の報告について
3. 議案第1号 筑紫野市奨学生の選考について
4. 議案第2号 筑紫野市文化財保護審議会委員の委嘱について
5. 部課長の報告について
6. その他

## 会議録

○教育長：ただいまから平成31年第2回筑紫野市教育委員会定例会を開会いたします。議事日程の順序に従い会議を進めます。なお、発言は議長の許可を得た後にお願いをいたします。

### 日程第1、教育委員会会議録の承認の件

○教育長：平成30年12月27日開催の平成30年第13回筑紫野市教育委員会会議録について、承認することに御異議はありませんでしょうか。

○（特になし）

○教育長：御異議なしと認めます。よって、本件については承認をされました。

### 日程第2、教育長の報告の件

#### ・校長会の報告

（年度末までの教育活動の評価及び次年度に向けての教育指導計画について、挨拶運動の取り組みについて、インフルエンザに対する予防について、コミュニティースクール——学校運営協議会の本年度のまとめについて、業績評価について、福岡県チャレンジテストについて）

○西村教育委員：インフルエンザが大変流行しているようですが、以前田代委員が言われていたように、給水、水分を補給するのがいいと言われているようです。うがいは余り効果がない、水分を補給するほうが効果があると今は言われているようで、それも20分に1回給水すると全然違うらしいです。授業中にお茶タイムというのはどうかと思いますが、休み時間ごとにとか、小まめな水分補給を生徒や先生方もされたほうがよいと思います。先生方もインフルエンザを罹患されている方も多いみたいですので、水分補給は大事だよというのを保護者や子どもたちにもしっかり伝えていただいたほうがよいと思います。

手洗いも大事ですが、その後にできればアルコール消毒をしたほうがよいと思います。インフルエンザウイルスはアルコールの消毒で死滅するらしいです。ですから、できれば掃除時間とかに今も机を雑巾で拭いたりするのでしょうか。そういうときにアルコールスプレーをすとか、ドアノブを少しアルコールスプレーすとか、みんなが扱うようなところをアルコールスプレーされると随分違ってくると思います。

○教育長：わかりました。早速そういったことも、もう一回呼びかけをしてもらっていいでしょうか。

○学校教育課長：養護教諭のほうに相談しながら伝えていきたいと思います。

○教育長：学年閉鎖や学校閉鎖になると大変です。

○西村教育委員：インフルエンザで1週間休むのなら、授業途中の給水タイムのほうがまだ効率

がいいと思います。

○近本教育委員：節水の件ですが、各学校毎日メーターは検針していますか。

○教育政策課長：先生方自身でメーターを確認されることはほぼないです。メーターはあるでしょうが、あえて見たりはしていないと思います。

○近本教育委員：メーターを朝なら朝、夕方なら夕方、見る時刻を決めて、誰がそれを検針するかをはっきりしておかないと、漏水があればすぐにプール1杯分ぐらいになります。何十万円ぐらいになります。それは絶対必要です。よかったらその辺をお願いしたいと思います。

それから、業績評価をするのは当たり前になっていますが、やり方によっては職員集団のつながりを切ることになりはしませんか。その辺は各学校で、職員集団において、言いたいこと、お互いに思っておることを自由に出せるような雰囲気をつくり、自分の殻に縮こまってしまって、周りに対する思いやりとか温かさとか、そういうのがなくなってしまうようにしてください。

業績評価とともに、どのように職員集団をつくっていくかという管理職の力量、指導力、このところが非常に大事です。これは、平成29年度に筑紫野市でつくったスローガンとも関係があります。あのスローガンをどう具体的に実践するのかについて話し合い、点検しながら、職員集団に移行するような指導をすれば本当の業績評価に結びつくのではないかと思います。競争になって蹴落とすようなことが起こってはいけません。協力の競争でないといけません。そのところを管理職は気をつけてほしいと思います。その辺の指導をしてもらいたいと思います。

○教育長：わかりました。大変貴重な御意見でした。本当におっしゃるとおりです。蹴落とすのための業績評価ではないのですが、そうやって目先のことにとらわれてしまうこともございます。早速、協力のための業績評価ということを校長会でもきちんとした形でおろしていきたいと思えます。ほかにございませんか。よろしいでしょうか。

○（特になし）

### 日程第3、議案第1号、筑紫野市奨学生の選考についての件

○学校教育課長：提案内容説明

○教育長：本件について御質疑がありましたらお願いします。

○（特になし）

○教育長：では、本件については原案のとおりでよろしいでしょうか。

○（特になし）

○教育長：では、承認されました。ありがとうございました。

### 日程第4、議案第2号、筑紫野市文化財保護審議会委員の委嘱についての件

○文化財課長：提案説明

○教育長：この件について質疑がありましたらお願いします。よろしいですか。

○（特になし）

○教育長：それでは、質疑を打ち切ります。それでは、本件を承認することに御異議ありませんか。

○（特になし）

○教育長：御異議なしと認めます。よって、本件については原案のとおり承認をされました。

以上で本日の議事は終了いたしました。

続きまして、各課等からの報告をいただきます。

### ○教育部長の報告

・私のほうからは1点です。新庁舎が1月4日に開庁して間もなく1カ月がたとうとしております。市長につきましては、あすから3期目がスタートすることになっておりまして、残された課題解決のために総力を挙げて取り組むと言われております。これまで分散していた機能が集約されておりますので、各課と連携を深め、これまで以上に教育環境の整備充実に努めていきたいと考えております。よろしく願いいたします。

### ○教育政策課長の報告

- ・平成30年度の筑紫野市人権同和問題講演会について
- ・田代教育委員任期満了について
- ・新庁舎内におけるスローガンパネル設置について

### ○学校教育課長の報告

- ・平成31年度の校長・教頭歓送迎会の日程について

### ○学校給食課長の報告

- ・2月分の献立表について
- ・平成31年5月7日に提供する献立について

5月1日が即位の礼ということなので、お祝的な意味を込めまして、華美なものにはできないのですが、連休の明けた最初の献立として、お赤飯や紅白なますなどを提供してはどうだろうか検討をしています。それについて教育委員さんの御意見があったらいただきたいと思っております。

○近本教育委員：子どもが喜ぶようなことをしてください。

○田代教育委員：赤飯とか今まで出たことがありますか。

○学校給食課長：季節によって何度か出たことがあるようです。

○西村教育委員：それを政治的に捉える方がおられるのかどうかというところがあると思います。そうすると、4月の最終の給食とかで、平成時代にはやったデザートを1品出すとか、そういうのもありのような気がします。

○学校給食課長：余り政治的な色が出ないように、元号が変わりましたという意味ですか。

○西村教育委員：そうです。今回初めて御逝去されて年号が変わるわけではなく、御健在のうちに年号が変わるので、お祝いムードは確かにあると思いますが、4月の最後のほうに、平成ではやったナタデココとかパンナコッタのようなデザートが1品出ても、子どもたちは喜ぶとは思いません。給食を休止する期間が長いので、そういうところで予算はあるかと思いますが、どうでしょうか。

○学校給食課長：今、給食の日数と回数については筑紫野市学校給食会議で最終的に決定していますが、校長会のほうからは、授業日数もあるので例年どおりの回数は確保していただきたいという御意見をいただいています。今年と変わらない日数分を提供しようということで今、進めております。

○潮見教育委員：私は取り立ててしなくてもいいかと思っています。世間の流れとしては、おめでたいことと捉える方もいらっしゃる、そうじゃない方もいらっしゃると思うので、教育委員会として学校の子どもたちにお祝いであるというお話をする必要はないかと思っています。記念日みたいなのは、西村委員が言われたようにあってもいいかもしれないのですが、献立に反映させるまでするのはどうかという意見です。

○田代教育委員：今、「昔の暮らし展」とかあっていますが、昔はお祝いのときに赤飯を炊いていたことを教える、伝える意味で私はあってもいいと思います。政治的なことまで考えなくていいと思います。

○近本教育委員：日本の天皇制が絡んだものでしたら少し考えたほうがいいと思いますが、ただ、年号が変わるところだけならいいと思います。そこだけ取り上げて、何を配るかを子ども側に立って考えてはどうでしょう。大人のほうでこれがいい、あれがいいと言っている、子ども側に立って何を喜ぶだろうかと考えるとことが大切だと思います。そのためには子どもを知らないといけません。例えば、幾つかの児童会に「まんじゅうとこれとこれ、どれが好きね」というような意見を聞いてみる。そして、品物を決めて配る。配るときにまた「これは皆さんの代表たちがこういうやつが好きって言っていたよ」というような配り方をしていく、そういう方向も一つ考えられるのではないのでしょうか。思想的なものが絡むとあまりよくないと思います。

○潮見教育委員：そうです。以前に学習センターで、お鏡餅を飾ったときにクレームが来ました。

あれは何の宗教になるかわからないですが、「筑紫野市は何ですか、こんなのを飾って」と言われた気がします。ですから、見る人が見れば、思う人が思えば引っかかるところがいろいろあるでしょう。

○西村教育委員：逆に昭和の初期の給食はコッペパンとか、平成になって少し洒落た洋食の大きいおかずみたいなのがあって、デザートで平成のものをつけてと、3世代の組み合わせ給食みたいな感じで。4月になったら年号が発表されるので、新しい年号前に「こんにちは、何とか」のように、そういうふう至今已来の給食と関連づけてというのでもイベント的な感じでいいかと思います。お祝い食ではなく、給食の流れをくんだようなものでやってみてもいいと思います。

○潮見教育委員：でも、そのメッセージを伝えないといけないです。こういうことでこうしましたということきちんと伝える必要があると思います。

○西村教育委員：昭和の初めのほうはコッペパンと脱脂粉乳です。

○教育長：それは私たちの世代のころです。はるか昔、50年ぐらい前です。

○潮見教育委員：クジラ肉とかです。

○西村教育委員：そういう給食の流れをもう一回振り返ってみるといいと思います。

○教育長：調整してもらい、子どもたちに、楽しく、ありがたいと思って食べてもらえるような給食にしてください。発想はいいと思います。何かそのあたりで子どもたちにきちんと返せるものを考えて下さい。

○潮見教育委員：あまりお祝い食は出さないほうがいいと思います。自分でもあんまりお祝い気分ではないというか、個人的には天皇陛下がかわられるというだけで、お祝い気分ではないと感じています。

○学校給食課長：ありがとうございます。もう一点あります。お手元にDVDをお配りしていると思います。これは平成26年に調理場を大規模改修したときに、改修後の調理の風景を映像におさめたものです。筑紫野市の学校給食会の理事会を開いたときに、各校長先生やPTAの会長さんにこの映像を見ながら給食を食べていただくんですが、この映像が欲しいと言われる学校が多く、例年1月の給食週間で給食に関するいろいろな取り組みをされるケースが多いので、昔つくって一度は配っているのですが、今年1月の初めにそのDVDをもう一度各校に配布しました。今回、教育委員の皆様にもお配りいたします。映像なのでパソコンで見てくださいか、普通の家庭用のDVDプレーヤーで見てください。1,000人分がつけられる大きな釜などでつくっている様子が見られます。

○潮見教育委員：子どもたちにも見せてくださいという要請はされていますか。

○学校給食課長：もちろんです。

○潮見教育委員：学校で給食訪問したときに、生で見たいという子どもたちの声がありました。

施設を訪問したという意見です。前は行っていたと思いますが、今は行っていないのですか。

○学校給食課長：山家小学校は例年来られますが、調理室の中には入っていただけません。2階から見てもらっています。どうしても調理室の中は衛生基準がありますので、検便検査などを済ませていないと入れません。そのほか、上から見ていただく分は大丈夫ですが、施設の広さや、会議室とかそういったものも限りがありますので、あんまり大規模に来ていただくと少し厳しいですが、今のところ山家小学校は例年来られています。

○教育長：山家小学校は何人ぐらい来るのですか。

○学校給食課長：40人程度です。40人程度でしたら、会議室で十分足ります。

○潮見教育委員：調理場を見るのは食育になると思います。大事に食べなきゃいけないとか、こうやって作ってくれているのだということがわかると思います。

○西村教育委員：各学校で成人教育とか、お母様方の委員会があると思いますが、そういうところで活用されているところはありますか。近ごろはありませんか。

○学校給食課長：ないです。

○西村教育委員：成人教育とかは、テーマがいつも行き詰まるとよく聞くので、できればそういうところも活用していただいて、給食も食べていただければいいかと思います。なかなか大人になると食べる機会がないですから。

### ○生涯学習課長の報告

#### ・筑紫野市成人式について

○西村教育委員：2022年4月から18歳成人となるので、その次の年、2023年の成人式をどうするかという話が出てくるころかと思います。18歳成人となると高校在学中ということになるので、成人式の時期であるとか、19歳の子はいつぐらいにしたほうがいいのかという他方面からの意見が必要だと思いますので、早いうちから手を打っていただいたほうがいいと思います。

○生涯学習課長：2022年は3学年、18、19、20と三つの世代が対象になりますので、規模も3倍に膨れ上がると考えられます。また18歳の高校生の方については1月のセンター試験等に重なるといったこともありますので、他市の状況や国の状況を早目早目に察知しながら検討していきたいと考えております。

### ○文化・スポーツ振興課長の報告

#### ・第63回筑紫野市駅伝大会の開催について

### ○文化財課長の報告

・第65回文化財防火デーに伴う消防演習について

○教育長：以上で、各課等からの報告を終わります。 それでは、その他に移りたいと思います。

教育委員の皆様、また部課長さんから何かありましたら出してください。

○近本教育委員：教育部長から総力を挙げてという話がありましたが、前にも市長が魂を入れるとよくおっしゃっていました。魂を入れるというのは、どういうところから切り込んで魂を入れるか、各課でいろいろあると思います。教育部全体でもあるし、各課でも魂を入れる切り口がいろいろ違うと思います。そういうところは、まだ詰めていませんか。

○教育部長：教育部に限って言えば、今、朝礼の中では市民サービスの向上ということが一番出ています。

まず一つ、総力を挙げてという言葉が出たもとなっていたと思っているのが、年末から年始の短期間に見事に引っ越しがやり遂げられて、1月4日に何事もなく開庁したことで、それはみんなの団結力のたまものだということを言われております。そういった全員の力を集結すれば物すごく大きな力が発揮できるのだということを踏まえて、総力を挙げて残された課題解決に向けて取り組んでいくと言われたと思っております。

魂を入れるについては、こうじゃないか、ああじゃないかという話は出ていますが、具体的にどういうところはまだ明確には出されていません。

○近本教育委員：それは魂を入れている一つの過程だと思います。一致団結して、あれだけの引っ越しが見事できたこと、ああいうことで市職員が団結する。そして、ある目的を決めたらそれを解決する努力をお互いに惜しまずにやっていく、みんなが新庁舎へ移って、より仕事をしやすい、みんなが仕事のしがいがあると思えるような中身をつくろうと。そのためにはトップダウンも大事、ボトムアップも大事ということで、お互いこれについては課題があると思います。その課題意識を持つというのが非常に大事だと思います。「市民サービスをするぞ」という意識、それについて自分は「こういう課題を持っている」と意識。そのように一人一人が課題意識を持ちながら団結していく。それをずっと掘り下げると、仕事って嫌なときもあるけど、最終的には楽しく仕事ができるような筑紫野市の職員をつくっていく。それを柱にやっていくぞとか、能率、効率を上げるような取り組みをやるぞと一つ誰かが提案したら、それにみんなでさーっと取り組み一致団結し、一つにまとまっていくぞという意欲を持ってもらえれば、市民にはそれが見えるわけです。

例えば、地域コミュニティーについては、まだ納得していない末端の職員もいるわけです。トップのほうは違うかもしれないけど。しかし、理解してもらわないと空回りします。いろいろ仕事をしてもらうときに、空回りしているところで行政に入ってくれといてもうまくいきません。



だから、足りないと思えるようなところには早くみんなで手を入れて、解決していくような方向ができれば、魂が入るのではないかと思います。

今度の引っ越しでのあれだけの行政職員のまとまる力、この力を活かすような提案してもらおうと市民も喜びます。それが市民サービスだと思います。本当にあの姿を見て、私は感心しましたが、あれで終わってはいけないと思います。これから先も続けてください。

○教育長：ありがとうございました。本当に貴重な御意見をいただきました。ありがとうございました。

市長は当初立ち上がる時から、魂を入れるにはどうしたらいいか、本当に今、委員長が言われたように、どういう切り込みで魂をきちんと入れていくかということ、まず庁議の中で提案されて、部長はそれぞれの部の中でしっかり考えを練って報告しなさいと何度も取り上げました。一つ言われたのは、予定より早く、しかも完璧に近い形でこの引っ越し作業が終わった、これも一つ魂を入れる過程であるということをおっしゃって、本当にありがたいと思いました。過程です。これから先、本当の意味での魂をどういう形でさらに根づかせるかという、その中の一つが市民サービスの向上です。これは本当にそうだと思います。できるだけ皆さんが寄って集まれるような、安心して集まれるような、そういう市役所のあり方に皆さん注目をされています。そういった意味でも、本当の魂をもっと私たちも考えて、見える形も含めてやっていかなければいけないと思います。

いよいよ明日、市長さんの3期目の初登庁です。職員を集めて市長の訓示がございます。その中で、こういったことについてしっかり触れられると思いますので、部長のほうからも、次の機会にどういう話をされましたと報告していただければと思います。

○田代教育委員：ずっと前から常々思っていたのですが、行政機関というのはどうしても縦割りであって、それぞれの仕事をきちんとなしていくという形になるわけですが、いわゆる地方行政にあっては、防衛や外交などの問題は基本的に扱わないです。何があるのかというと、そこに住んでいる人たちの福祉の増進、それ以外にないと思います。その福祉の増進のために、道路もつくる、学校もつくる、ダムもつくる、いろいろな制度もつくるといったことが全てなされるはずだと考えています。自分の仕事が住民のためになるかといった視点を常に持つ——全ての部署がそういったことを念頭に置きながら、いろいろな日常業務に当たっていくということが大事ということを讀んだことがあります。

まさにそういうことだと思います。役目、役割があるので、どうしてもその目の前のことにとらわれて、しかもよその課の業務に手を出したらいけないとかいろいろあります。そういう中で、往々にして視野が狭くなることもあり得ますので、そもそもこれは何のためにあるのかを常に上位概念に上っていくような形で考えていかないと、本来の目的から外れてしまうことが往々にし

であるようです。私は行政に勤めた経験はないですが、そういったことも少し頭の隅で考えられると少し違う世界が見えてくるのではないかとも思います。

○近本教育委員：要は命と暮らしを守るという使命は動かされないから。

○教育長：今、田代委員から本当に大変貴重な御意見をいただきました。きょうは部長、課長、全員聞いておりますので、教育部が魂を入れるのに最適かと思えます。

○近本教育委員：建前もあると思います。建前があるのは真実があるということです。真実があれば建前もあります。そこは使い分けないといけないところが世の中にはあります。使い分けることによって、楽しいこともあるし、嫌なこともあります。いつでも難しいことだけを言わなくてもいいわけです。酒も飲まないといけないし、好きなこともしないとけません。とにかく行政は頑張っているのです、頑張ってください。

○教育長：何で自分はこの仕事をしているのか、常にそれを問いながら、市民のために市のためという意識が大切です。そのあたりがどうしても抜けつつあります。原点に戻るようなお話ありがとうございました。お礼申し上げます。しっかり頑張っていきます。

○潮見教育委員：12月の教育委員会の会議内容に戻ります。会議録を読んでいて思ったのですが、あのときに中体連の話が出ました。施設の貸し出しの件ですが、あれを読んでいて「ああ、そうか」と思ったのは、農トレなどの大きなところを中学校関係に使っていただくということで、逆に中学校の運動場などを社会体育のほうで使っていただいたらいいのではないかと思いましたが、そういうことは難しいですか。中学校のほうが空くでしょう、グラウンドとか。日程によるでしょうけれどね。

○教育長：いろんな試合会場があって、学校のグラウンドがあくことはあるでしょう。

○潮見教育委員：そういう交換ができたらいいのではないかと思います。

○田代教育委員：それもやっていますが、本来おかしくないですか。

○潮見教育委員：おかしくないと思います。西村委員が言われたように、中学校の部活は中体連というある程度目標を持って活動があっていると思うので、一堂に会して試合をするには、ああいう大きな会場でないといけないと思います。

○田代教育委員：そういう種目もありますし、そうでない種目もあります。

○潮見教育委員：種目によってはそうかもしれません。ですから、そのときに重なるならば、逆に学校のほうを社会体育に使ってもらえばいいと思ったところです。

○教育長：大久保課長、そのあたり現状としてはどうですか。

○文化・スポーツ振興課長：中学校のグラウンドは、現状は筑紫野中と筑山中はナイター設備がありますので貸し出しをしています。ただ、それ以外のグラウンドについては、平日は中学生の部活動がありますので貸し出しはしていません。中学校の体育館、それから武道場については貸

し出をしています。

○潮見教育委員：平日は学校があっっています。

○西村教育委員：中体連は週末です。

○潮見教育委員：案として言っただけなので、現状が無理ならそれはそれでよいと思います。

○田代教育委員：それもありだと思ひます。ありだと思ひますが。

○教育長：とにかく使いやすいような形で、皆さんがあんまり不公平な気持ちを持たないようにしてください。

○西村教育委員：ただ幾つもの名前を使って一斉に押さえてしまう団体があつたら困ると思ひます。チームとしては同じだけど、チーム名と代表者を変えて、いろいろなところを押さえていくということをしているところもあると思ひるので、そういうところの管理をどうしていくかということも大切だと思ひます。

○潮見教育委員：いろいろ課題はあります。わかりました。

○教育長：そのあたりはちゃんと注意されているのでしょうか。

○文化・スポーツ振興課長：利用される団体さんは、団体登録というのをさせていただいているし、そのあたりはチームの皆さんのマナーです。お互いさまで使っていることを忘れないようにしていただきたいです。私たちが年に一回は学校ごとにそういった団体さんを集めて打ち合わせをしていますので、その中で呼びかけはしています。

○教育長：呼びかけはしてもらっているのですが、さらにその周知を徹底してもらおうとありがたいです。

○田代教育委員：私は教育委員の中で一番新参者ですので、あちこちの委員会に行きなさいと言われて、いろいろ参加させていただいています。人権啓発委員会などには皆さんのほとんどの方がかかわっていますので報告する必要はないと思ひますが、もう一つ、明るい選挙推進協議会というものにも行かせていただいております。定期的にこのような冊子が来たりします。ふだんはなかなかかた苦しくて読めないのですが、これは比較的わかりやすいことが書いてあったので、ちょっと一部紹介したいと思ひます。

実は、今回の市長選挙におきましても、期日前投票の立ち会ひのスケジュールであるとか、いろんなことが一応決まっています。結果的にはありませんでしたが、今回初めて実際に選挙という場面になったので、そういったことをすることがわかつた次第です。

この中に、実は地方議会のことが書いてありまして、ある意味、非常におもしろく、わかりやすいので、ちょっと読ませていただきます。

「議会の審議では、本会議や委員会で質問が行われるが、そこは議員が知らないことを尋ねる場ではない。あらかじめ案件に関し十分調査、検討し、執行部の意向や政策をたずねる場である。知

らないこと、わからないことは、あらかじめ現地、現場調査を行い、他の自治体の事例との比較もした上で問題点を明確にして、執行部に対して「こうすべき」「こうすることができるのではないか」という改善案を提示することが質問のほうである。実際の質問は、あらかじめ調べればわかるようなことを聞いているため、現場に緊張感が乏しくなり、居眠りする議員が出てくる原因となっている」。こんなことが書いてありました。「ああ、そうなのか」と思いながら読みました。私たちは議員ではありませんが、できたらこの委員会もできるだけレベルの低い質問はやめて、格調高い委員会にしていくべきだと私自身が思っているところです。

もう1点紹介すると、ここの推進協議会は講演会もされています。初めて案内が来まして、今度の2月15日に九州大学大学院比較社会研究院の施光恒先生の講演があつて、内容は「政治的関心の大切さ——よりよき日本を次の世代に手渡すために」という題ですが、実は私、この先生の本を以前読んだことがありまして、それは英語化に関する本でした。英語化政策は愚民化だということが書かれた本ですが、大変感動した記憶があります。勤務中ということになりますから聞きに行くことはできないかもしれませんが、こういうこともあると改めて知った次第です。

英語化が愚民化というのは、英語教育が悪いということではございませんので御安心ください。英語を公用語にしようという一派というか、それをずっともくろんでいる勢力が結構根強くあるようです。しかし、人間は思考力、考える力を養うのが一番大事であつて、そのためには母語でないといけないということをしきりに力説されております。中途半端に英語に変えて、それを放棄するような状態は本末転倒だと。それと、余りにそのことを言い過ぎると、英語は日本語よりもすぐれているといった議論になってしまうし、母語は母語としてきちんと身につけていくことが大切だということが論じてあつたと記憶していますが、そういったことを言われた先生です。2月15日にありますが、大変楽しみにしております。一応、その報告です。

○教育長：田代委員、ありがとうございました。さらに格調高い教育委員会になるように努めます。

○近本教育委員：部長、教育委員会としては、みんなが物を言えるような教育部、それを目指すことが大事だと思います。

○教育部長：ほんとうにいろいろ大変御意見等を出していただきまして、ありがとうございました。それでは、その他はよろしいでしょうか。

○（特になし）

○教育長：それでは、これをもちまして平成31年第2回筑紫野市教育委員会定例会を閉会いたします。